

平成 26 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	萌芽型
事業名称	グローバル女性リーダー育成 高度リベラルアーツプログラム
取組代表者名 担当者名	<p>本事業代表者： 小玉亮子（教育企画室長）</p> <p>本事業担当者： 加藤美砂子（広報推進室長） 北林春美（グローバル協力センター准教授） 小谷眞男（大学院人間文化創成科学研究科教授） 申 琪榮（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 長谷川直子（大学院人間文化創成科学研究科准教授） マルセロ デ アウカンタラ（大学院人間文化創成科学研究科准教授） 最上善広（大学院人間文化創成科学研究科長） 森義仁（大学院人間文化創成科学研究科教授）</p>

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

1. 事業構想

現在、博士課程修了者にたいしては、従来の研究職のみならず多方面での活躍が求められているが、特に、国際的にも日本における女性リーダーが活躍できない状況が問題視される中において、あらゆる分野における女性のリーダーの活躍が期待されている。現代においてリーダーに求められるものは、高い専門性と広い視野から俯瞰できる幅広い教養である。お茶の水女子大学のリーダーシップ教育において、学部段階ではすでに先行してリベラルアーツ教育改革が推進されているが、これをより高度化したプログラムが大学院教育においても推進される必要がある。そこで、本事業は、博士課程在学者を対象とした高度リベラルアーツプログラムとして、試行的に二つの事業（トランス・サイエンス論と、海外実践的活動支援）を開始することとした。今年度は本事業の二年目にあたり、昨年の実績を踏まえて海外派遣事業を継続するとともに、トランス・サイエンス論は、大学院のみならず、学部にも拡張して実施した。

2. 事業内容

1) トランス・サイエンス

従来のお茶の水女子大学において学部教育において文理融合の理念をもとにリベラルアーツが構想されてきたが、高度リベラルアーツにおいては、単なる人文・社会科学領域と自然科学領域を融合させるという発想では必ずしも十分でないと考えられる。現在、たとえば、東日本大震災における原子力発電所の問題など、「科学に問うことはできても、科学（だけ）では応えることが出来

ない問題」、すなわちトランス・サイエンスの議論が広く求められている。このような知見に立つとき、大学において、まさに、この議論を進める必要があると考え、平成 25 年度に、高度リベラルアーツの柱として「トランス・サイエンス論」を大学院リベラルアーツの授業として試行し、合わせて、受講者のみならずキャンパス内にトランス・サイエンスについての理解を深めるために、公開シンポジウムを開催した。

本年度（26 年度）は、引き続き、大学院において、トランス・サイエンスの授業を開講すると同時に、大学院に引き続き、学部の LA 授業においても「トランス・サイエンス入門」を開講した。さらに、公開イベントとして、前期に大学院授業の公開セミナー「科学の不定性と社会的意思決定プロセスへの科学者の関与---イタリアの震災事例を中心に」を開催し、後期には、学部の公開講義として、「公共事業決定プロセスにおけるマスコミの役割」及び「公共事業決定プロセスにおける官僚と諮問機関の役割」を開催した。

## 2) 海外実践的活動支援

高度リベラルアーツにおいて、グローバルな視点は不可欠である。本事業では、海外における企業や NPO 等各種団体におけるインターンシップ活動を対象としたものとして昨年を引き続き、院生のための活動支援をおこなった。大学院生を対象とした類似のプロジェクトとしては、平成 23 年度より博士課程のポストドクター・インターンシップ事業が行われているが、この事業では、国内におけるインターンシップが中心である。

本事業においては、学生の主体的な活動として、海外における企業や各種団体でおこなわれるインターンシップ事業に院生を派遣することを目的とした。本年度は、12 万円を限度として 3 名の院生を海外に派遣した。理学専攻の博士前期課程 1 年生をフィリピンに派遣し、人間発達科学専攻の博士後期課程 2 年生を北京に、また、同じく人間発達科学専攻の博士後期課程 1 年生を香港に派遣した。

以上、二つの事業内容については、『お茶の水女子大学学内教育 G P プログラム事業「グローバル女性リーダー育成高度リベラルアーツプログラム」報告書』にまとめ、2013 年版および、2014 年版として、印刷製本し、お茶の水女子大学附属図書館において閲覧することを可能にしている。詳細については、上記、二冊の報告書を参照されたい。

## 2. 今後、申請を予定している競争的資金

本経費は、外部の競争的資金等を獲得するための準備経費として助成しました。今後、競争的資金の申請を予定している場合は、資金名を記入してください。

本経費は、当初、リーディング大学院、及び、スーパーグローバル大学創成への準備として、申請されたものであるが、本事業終了時、平成 27 年 3 月現在においては、具体的な申請予定の資金はない。しかし、今後特別経費等の大学教育改革の柱を担いうる事業として位置づけられると考えている。